

2015年度  
埼玉地区主題

主にある交わりを  
深めよう

日本基督教団関東教区

# 埼玉地区通信

2015年11月29日  
発行人 日本基督教団 関東教区  
埼玉地区委員会  
委員長 川 染 三 郎  
鴻巣市東1-1-27  
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/  
印刷所 (株)シャローム印刷

## 第四十二回

### 埼玉地区教会全体修養会報告

小川教会 末 永廣

第四十二回埼玉地区教会全体修養会が、去る八月三日〜五日の三日間、七十二名（地区二十一教会・内子供は八名）の参加者により軽井沢南ヶ丘倶楽部で開催された。

地区全体修養会であるので、開会礼拝は地区委員長の川染三郎牧師（鴻巣教会）、閉会礼拝は副地区委員長（野村忠規牧師（東松山教会）がそれぞれ担って下さった。

主題は「主にある交わりを深めよう―教会における様々な関係から―」。講師の窪寺俊之先生（聖学院大学大学院人間福祉学教授・こども心理学科長・元淀川キリスト教病院伝道部長）による二回の講演、朝礼拝の説教などを通してそれぞれ思いを巡らせ、また分団や交わりの時、子どもから大人まで「主にある交わり」を深めることのできた二泊三日であった。

窪寺先生による第一回講演は、「クリスチャンとノン・クリスチャンとはどこが違うのか」という問いかけから始まった。イエス・キリストとの出会いによって人生が変えられた、という経験をもつ人がクリスチャ

ンである。この出会いは否定できない決定的な体験であり、宝であることを喚起し、このキリストとの交わりに生かされていることを喜ぶのがクリスチャンであることとを改めて示してくださった。「新生」という言葉が使われて、新しく生まれ変わったという体験を私たちに与えられているということとは喜びで、これは私

たちにとって否定する事の出来ない経験である。故に、私たちにそれがあれば、その私たちの信仰生活は、この原点に帰ることが出来て、その経験が私たちを支えてくれると語られた。「だから、キリストと個人的に出会った体験が私たちに如何に重要か、そして、そのキリストとの愛の体験と経験を思い起こす度に信仰の原点に私たちが引き戻して下さいま

す。」との講師の言葉が心に響く。主イエスが徴税人マタイや迫害者パウロを選んだ出来事から、主イエスに個人的に出会う経験を持っている者が、価値観が変わり生き方が変わると、今度は新しい生き方が示されていく、ということを説かれた。

第二回目講演では、まず、日本の教会の置かれた状況を確認した。その中で日本の教会が置かれている現状



第 42 回 埼玉地区教会全体修養会

## たね

先日、若手の牧師から学ばせられたことがある。内容は次のようなものであった。

「信仰には、行（Doing）、知る（Knowing）、存在（Being）がある。今はBeingが大切な時だ。神の御前に心を静め、神の御言葉を黙想し、神を感じることに目直されている。なぜなら神を感じる中でこそ、私達のBeingは神の御前で安息を得ることが出来る。私たちは神を感じ、神との交わりの中での存在であると気づいた時にこそ、Doing（行い）も Knowing（知る）も本当の意味で生きていく。」

誰もが自分の存在を愛し、受け止めてくれることを求めている。クリスチャンでも、ノンクリスチャンであっても、その点は異ならない。教会が誰にとっても、私というBeing（存在）が愛され、受け入れられ、神の御前で安息を得る場所であるようにと願う。

同様に、地区内の教会も、地区内の牧師方も共に受け入れ合い、伝道牧会に協力し合う地域伝道体でありたい。

（町田さとみ）

に対する様々な解釈—文化は、以前は年上の世代から年下の世代へ降ろされ継承されてきたが、今の時代はその逆の現象が起きている。文化の発信者は若い世代であり、下から上の世代へ届けられている(例…パソコンなどの端末による情報や操作方法)。文化も価値観も多様となっている。宗教への警戒心もある。—こういう社会状況の認識に加え、スピリチュアルケア(相手が主体、相手に選択権がある)と宗教的宣教(教会が主体、神に仕える)との違いについても語られた。方向が全く違う二つのケアの仕方を踏まえて、福音の伝達、ということとを再考する必要があるのではないか、という問題提起がなされた。



一方、主の召し(calling)と使命(mission)についても話された。主の召しに応えるとは自分の人生が何のためにあるのか

を自覚することに他ならず、自分の使命をキリストがあがめられる働きの中に見出すのがクリスチャンであり、その群れが「教会」(新しい民)である、と示された。「神は、(教会を)新しい民として用いようとしておられる」と語りつつ、その召しに教会は応えられているか? という点からも問題提起がなされた。



これらの講演の内容について、分団や全体会での質疑応答が活発になされた。「世のニーズに応えるには、何よりも、世の混乱や痛みの中だけに降ってきてくださったイエス・キリストの福音こそが応えること

の原点にあるはず。」というフロアからの応答もなされた。二日目の自由行動の時間は突然の豪雨・雷・電と天候不順に驚いたが、それぞれに軽井沢の自然を満喫できたことと



新鮮であった。そして、大人たちが講演と分団の時間を過ごしている間、子どもたちは「こどもプログラム」によって過ごした。今回は、ルカによる福音書から、子どもを招くイエスさまの物語を学んだ。フィギユア(『小さな子ども達と礼拝』)を使った礼拝、思い巡らしの時間の絵画、参加者へのしおり作り等、よく準備されたプログラムを子ども達は堪能した様子。三日目の全体会では、朗読劇を発表。子どもたちとスタッフとの微笑ましい劇であった。



また修養会の間、食前の祈りは、子どもたちが交代でささげてくれ、子どもも大人も、参加者全員が主にある交わりを深めることができた。

修養会開催に多くの方が祈りをささげて下さったことを思う。また実施にあたって想定外なこと多々あり、委員や協力者皆様の尽力によってなんとか二泊三日のプログラムをこなすことができた。それぞれに深く、感謝申し上げます。

二年後、願わくは、もっと多くの方と、この恵みの時を共有できますように。

(修養会委員長)



### 十埼玉地区中学生KKS 青年キャンプ報告

毛呂教会 澁谷 実季

今年度は初めて、群馬県みなかみ町にある日本バイブルホームを会場にし、総勢五十四名の参加者(中学生十四名、高校生十二名、青年十五名、おとな十三名)と共に二泊三日のプログラムを行いました。この会場は、宣教師が運営しており、自然豊かな場所、温泉もあり、聖霊の豊かな働きを感じ、またアメリカの雰囲気を感じることが出来る場所でした。



今回は、「イエスさまをわたしの『うち』に」というテーマを設定しました。ルカによる福音書十九章一節から十節に記されているザアカイの物語から、それぞれがザアカイの気持ちとその変化、またイエスさま

の心の思いを想像し、それをもとにしてストーリーや配役を考え、三グループ(中学生、高校生、青年)に分かれ、劇を発表しました。



劇を行うことで、ザアカイがどのようにして救われたのか、またその救いは自分自身とどのように関わっているのかについて、より具体的に理解することが出来ます。発表するまでに、御言葉を繰り返し読み、御言葉を感じ、それぞれに感じたことを分かち合いながら、ストーリーを考え、演出を考えていきます。そして、劇を発表し、その後を振り返るという流れを通して、ザアカイについて、イエスさまについて理解を深めました。

中学生と青年の劇は、聖書を忠実に再現して演出しており、高校生は現代の高校を舞台にして演出をし、一人ひとりの個性が最大限に生かされ、タレントが用いられ、とても完成度の

高いものが仕上がりました。二日目は盛りだくさんのプログラムがありました。お昼に奈良俣ダムにハイキングに出かけて行き、ダムの迫力とその雰囲気を感じながら、アイスをおぼり、思い思いに時を過ごしました。今回キャンプ直前に怪我をして欠席となった生徒がダムに来てくれて、少しの時間でしたが一緒に時を過ごすことができたことはとても大きな恵みでありました。

午後のフリータイムでは、外でボール遊びをしたり、川に出かけたり、内では楽器を演奏したり、それぞれにリラクセスをして過ごしました。その後、大会イベントである劇の発表会が開催されました。



そして、夕食後にキャンプファイヤーを行い、最初に青年部の執行部による交流タイム

で楽しい時間をもち、その後一人の青年に証しをしてもらい、静かに火を眺めながら、それぞれが心の内に持っている思いや、救いの証しを、多くの参加者が語ってくれました。普段なかなか話せない人も、勇気をもって語ることができました。



このキャンプに何度も参加している人も、初参加の人も、このキャンプを通してみんなが交わることができ、普段見せない姿も見ることができました。二泊三日という短い期間の中で、とても濃い交わりがなされ、また、一人ひとりが神さまと出会うことができ、神さまの恵みをたくさん受け、それぞれの信仰が養われ、霊的に成長することができたキャンプでした。みなさまの祈りに支えられ、三日間、天候が守られ、事故もなく無事に過ごすことができました。感謝いたします。(教育委員会委員)

### 十平和を求め 八・一五集会

行田教会 清水 与志雄

二〇一五年の八・一五集会は、「罪責を担う教会」、副題は、「関東教会」教団罪責告白」を生きた」と題して、最上光宏牧師(所沢みくに教会)を講師に、埼玉和光教会にて講演会を開催した。内容は、次の項目に要約される。  
一「罪責を告白することの意義」  
二「教団の罪責を告白するようになったのかその経緯」  
三「戦責告白との関係」  
四「教団成立における罪」  
五「天皇崇拜とキリスト教」  
六「アジアの諸教会と在日の隣人に対する態度」  
七「教会擁護の問題」  
八「今後の課題」

「関東教会の『教団罪責告白』文は、可決承認されたが、これが終わりではない。新しい始まりである。この『罪責告白』を各教会・伝道所が、如何に主体的に受け止め、一人ひとりの信徒・教職が、この『罪責告白』をどのように生きるか、という大きな課題が残されている」と結んだ。  
二十七教会・七十九名が参加した。(社会委員会委員長)

### ✠喜びと感謝 伝道所開設・牧師就任式

久喜復活伝道所 山野 裕子

二〇一五年五月の関東教会総会で、久喜復活伝道所の開設が承認され、日本基督教団に仲間入りしました。七月に三名が受洗、八月までに九名が転入。主が埼玉県のガリラヤの地で伝道を始められ、先ず召された十二人です。

開設式の八月十六日は、先に開拓伝道を志した故山野忠男牧師が召されて五年目の日でした。

主日礼拝は、二十人で、故人の説教テープで御言葉を聞きました。暑い盛りですし、普通の家の一階リビングと和室の室内に、何人お迎えできるのか案じましたが、主のご心配で、十五時からの開設式は、ちょうど満席の六十人でした。

司式は、親教会の上尾合同教会牧師・関東教会総会議長の秋山徹先生で、説教題は「渇いてくる人は、わたしのところに来て飲みなさい」。式の中で、牧師就任式と四人の役員就任式がありました。牧師、役員、会員それぞれが誓約をし、主の体なる教会の招聘に応え、仕える覚悟を新たにしました。



川染三郎地区委員長(鴻巣教会)からは、「地区の若枝の誕生を喜ぶ。信徒の信仰により教会が成長する」との祝辞がありました。主を賛美する賛美の音が、狭い部屋一杯に響きました。

式後の茶話会は、身動きがでない中でしたが、共に喜ぶ同労者方から、親しい励ましの言葉をいただきました。故山野牧師のエピソードも紹介され、復活の信仰継承を確認することができました。祝電と献金も感謝致します。

記念品?、接待の茶菓?、駐車場?、と思いついて準備し、伝道所の一人ひとりが様々な役割を精一杯奉仕しました。当日の様子は撮影され記念として残されました。

現在、毎週の主日礼拝、祈祷会、毎月一回の聖書を学ぶ会、

映像で聖書を学ぶ会、賛美とゴスペルの会、初心者セミナーをしています。

伝道所内の活動は少ないので、地区の諸集会への出席を勧めています。地区婦人部・青年会・アーモンドの会、そして教師会等、集会所の時から、主に在る交わりに加えて頂きました。今後も、諸教会の祈りと助言を受けて歩みたいと願います。



九月に、協力牧師が藤崎信牧師から小久保達之佑牧師に交代しました。十月に、一名受洗、一名転入し、現在の教会員は、十代一名、二十代二名、三十代三名、四十代二名、五十代一名、六十代二名、七十代二名、八十代一名と各世代が揃い、男七名、女七名です。弱さを抱えた

者とその家族が多いという特徴があります。礼拝の中の子どものプログラムは、求道者と知的障がい者も考慮しています。

復活のキリストの福音を宣べ伝え、神と隣人を愛し、重荷を共有する「神の家族」として歩む群れとされるよう、伝道所一同で祈っています。

### ✠第二十一回

### アーモンドの会

大宮教会 石川 幸男

九月二十一日(月)、埼玉和光教会に於いて、アーモンドの会(障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会)が行われました。今年のテーマは「心の病が問いかけること」とし、日本の精神保健福祉の歴史をもとに、「心の病」とは何か、また家族や教会の課題は何かなど、幅広い問題について考える機会となる



ように計画しました。講師として、日本基督教団柿の木坂教会員で、精神科医師、放送大学教授である石丸昌彦氏をお招き致しました。

一九〇〇年(明治三十三年)精神病患者監護法(看護ではない)が制定されて以来、日本の「心の病」を負った方々は、旧民法下の「家」の責任において私宅監置されるといふ悲惨な状況に置かれました。一九五〇年、精神衛生法制定により私宅監置は廃止されましたが、ライシャワー事件、宇都宮病院事件などが発生し、日本は国際的に非難を浴びました。その上で「精神疾患」と「心の病」が私たちに何を問いかけているのか。国の責任、そして自分自身や教会が何をすべきか、深く考えさせられる一日となりました。

午後の証は「今あるのは、神の恵み」と題して、埼玉和光教会の安永直美さんより、一年前に遭遇した交通事故の体験から、神さまの深い恵みについてお話を伺いました。

今年のアーモンドの会は埼玉地区より二十六教会、一団、一人、合計一三三名が集まりました。過去最高の参加者となりました。(アーモンドの会書記)

### 十 災害対応講演会報告

和戸教会 三羽 善次

地区災害対応委員会では、これまで東日本大震災関連で講演会を三回持ちましたが、今回は震災直後から被災地に入つてボランティア活動をされている

須市にある福祉施設「愛泉」から、同じように被災地支援をされている島田恵満さんにも現地支援報告をしていただきました。(九月二十六日、埼玉新生教会)。

島田さんが属する福祉施設「愛泉苑」の職員の方々も、毎月数名ずつ現地に入り、特にご老人や子どもたちへの支援活動をされておられる働きを報告して下さいました。

お二人のお話を通して、被災

地における支援活動が単発的なもので終わってしまわないで、継続していく事がどれほど大事であるかを改めて教えられました。

会の最後に、先月茨城における鬼怒川の氾濫によって床上浸水の被害があった水海道教会の復旧支援活動をしていただいた山岡創牧師から報告をしていただき、祈りを合わせました。(災害対応委員長)

### 第十二十九回 伝道と賛美の集い

埼玉新生教会 奥田 幸平

十月三十一日(土)午後二時から、日野原記念上尾栄光教会において埼玉地区伝道委員会主催の「伝道と賛美の集い」を開催しました。



開会挨拶を伝道委員の大坪直史牧師(熊谷教会)が行い集会が始まりました。また、教会の千葉恵子さんの歓迎の言葉とピアノ演奏は、馴染みのある選曲と解説によって和やかな雰囲気醸し出されました。

大正琴を演奏された同教会客員の廣田さんは、福島の原因事故により上尾に連れられ、大正琴の同じ流派のサークルの方と出会い一緒に出演することが出来、原発事故疎開を通して神さまの様々なご計画の中に置かれていることの証をしてくださいました。

また、「私はなぜ生きているのか」という神田英輔氏(声なき者の友の輪・代表)の講演を中心に、様々なジャンルの音楽と出演者の証がなされました。

神田英輔氏の講演は、ルワンダの五十万人とも百万人ともいわれる大虐殺というショッキングな出来事を通して私たちのものの見方を問い直す講演でした。

この大虐殺がフツ族とツチ族の民族対立で起きたものと考えがちだが、フツとツチの違いは単に経済的な区分であり、中身は兄弟や親戚が殺しあう

悲惨な状況を過激派が作り出したもの。「ツチを殺せ、ツチを殺せ、ツチを殺せ」との大量の宣伝がなされて、虐殺に向かわされた。眼鏡に例えるならば、気が付かないうちに色眼鏡で見るよう仕向けられている。このようなことは私たちの身の回りでも行われているので気づき

が大切であると訴えています。神田氏の夫人エリザベスさんのピアノ演奏、教会員の三谷さん、友情出演してくださった

ゴスペルグループ「Voices of Hope」の方々の賛美と証があり、最後に全体賛美として「聖者の行進」をアコーデオンと



ハーモニカの演奏で歌いました。東海林昭雄牧師の教会紹介と閉会の祈りをもって集会を終えました。

集会后、用意された軽食をいただきながら交わりの時が持たれました。

今回の伝道と賛美の集いは教会の方々の祈りと、様々なお招きの準備があつてご近所の方も予想を上回るほど多く来られていました。

日野原記念上尾栄光教会の皆様から感謝します。地域の方々が教会につながってくださることを祈ります。

参加者七十七人、十九教会 (伝道委員)



### 教会音楽講習会報告 〜オルガン音楽の実践〜

埼玉新生教会 中村 百合子

今年度二回目の教会音楽講習会を、十月三日(土)東京聖書学校吉川教会にて開くことが出来ました。

会に先立ち、東京聖書学校吉川教会の深谷春男牧師より詩編三十編六節、十二節の聖書朗読とお祈りを頂きました。

六月の「オルガン音楽の歴史」に続いて、水野均先生(桐朋学園大学講師・早稲田教会オルガニスト)から「オルガン音楽の実践」と題して、リードオルガンで弾ける奏楽曲の講習を受けました。



普段、礼拝の前奏でよく使われるコーラルや賛美歌に基づく奏楽曲ではない「カトリックの典礼曲に基づいた曲」を十二曲紹介してくださいました。参加者がそれらを実際にリードオルガンで弾いて、先生からのご指導を受けました。\*聖体奉挙、聖

体拝領等に基づく曲など、献金や聖餐の奏楽として活用できそうな曲を先生が選曲してください、普段耳にすることのない曲ばかりで新鮮でした。



音色の選び方や弾き方、速度、強弱のつけ方などの技術面と奏楽する際の心構えを先生が指摘しご指導下さると、参加者の演奏が見違えるほど変化するのがわかりました。

「奏楽者は指揮者であり、会衆の息命を預かっている」「奏楽は奏楽者の信仰の証であり、会衆の信仰を引き出す役目がある」とのお言葉が心に残りました。

十七教会三十四名の参加でした。(礼拝音楽委員会)

(\*聖体奉挙=カトリックでのミサの時、パンと葡萄酒を司祭が高くかけて信徒に示すこと)

### CSせいと大会

坂戸いずみ教会 野澤 幸宏

本年度のCSせいと大会は、十月十二日(月・祝日)に開催しました。例年十一月の祝日に行っておりましたが、バザーなどを行う教会も多いため重なるためです。滑川市の武蔵丘陵森林公園を会場とし、好天に恵まれました。大人と子どもを合わせて、十二教会八十二名の参加がありました。朝十時に南口ゲートに集合し、わいわいと運動広場まで移動。大きなブルーシートに全員一緒に座ります。

開会礼拝では、教育委員長の山岡創牧師が、ルカによる福音書十九章のメッセージを、自らザアカイに扮しての劇の形で語りました。



途中、わざと木から落ちるパフォーマンスに、子どもたちからは歓声が、大人からは悲鳴

(!)が上がっていました。続いて、クイズを交えた楽しい各教会の紹介の時間を経て、お昼

には、日本有数の大きさを誇るエアトランポリン「ぼんぼこマウンテン」で汗だくになるまで飛び回ったり駆け回ったり、思い思いに楽しんでいました。その後には、「猛獣狩りに行くよ」の改版版「教会へ行こうよ」などのゲームで交わりの時間を持ちました。一番盛り上がったのは、お互いを呼び合う「だるまさんが転んだ」です。



子どもたちにとって、このように他教会の同世代と交わる機会には貴重な経験になると思います。今回、子どもたちを送り出してくださいました教会とCS教師の皆さまに感謝します。(教育委員会協力委員)

### 中学生・KKS青年 (秋のフェスタ)

川越教会 鈴木 林太郎

秋の便りが日ごとに深まる十月二十五日(日)の午後、中学生から大人まで総勢五十名ほどのメンバーが一堂に会す。「久しぶり」、「初めまして」が絡み合う、いつもの川越教会が実に新鮮味あふれる空間に感じられる。

小礼拝で幕を開け、その後バーベキュー準備へと移る。同時に、キャンプの想い出の文集づくり、バーベキュー食材の仕込みに、それぞれのフィールドでそれぞれのメンバーが活躍してくれる。その様子は顔のほころぶものだ。

文集づくりとバーベキュー仕込みの終わりのメドが立ち、いよいよバーベキュー開始。鉄板の上を、食材のあるテーブルのまわりを、たくさんのお話が飛び交う。そして、その日、誕生日を迎えたメンバーをみんなで祝う。そんな様子は、一つの大家族のよう。

神さまを軸とした交わりに心から感謝。こうした交わりを通して、またひとつ、神さまとの関係を考え、教会への想いが大きくされますように。(教育委員会委員)

# 特集

地区通信委員会は、今年度からしばらくの間、この「特集」のページを埼玉地区六十一教会・伝道所を知るページとして用いる事にしました。各教会の「今・そして課題と展望」をご紹介いただき、お互いを身近に感じ、知り、「主にある交わりを深める」一助になることを期待しています。

\*\*\*\*\*

## 教会の今、課題と展望

聖学院教会 東野 尚志

聖学院教会は、一九七六年、学校法人聖学院と滝野川教会の協力事業により、緑聖伝道所として生み出されました。開設当初から、短大（大学）と幼稚園と教会の三者が、祈りを合わせつつ、さいたま・上尾の地における教育と伝道の業を担ってきたのです。

十一年前に、大学と共同で建てたチャペルは、千人収容可能です。平日は大学のチャペルとして全学礼拝や講演会、音楽会等が行われ、日曜日は教会の礼拝堂として用いられます。聖学院教会は、デイサイプルの伝統を受け継ぎ、洗礼は全身を水

に沈める浸礼として行い、聖餐は毎週の礼拝で祝います。チャペル正面、十字架の下にある洗礼槽と長椅子の背に等間隔に空いた穴が、教会の礼拝堂としての確かな証しでもあるのです。



普段は、教会員中心に四十数名の礼拝ですが、学期末の教会出席レポート提出期限が近づくと、学生たちを迎えて四倍近くに膨れあがります。これを伝道の機会として捉え、工夫しながら礼拝を整えていくのが課題です。

来年は伝道開始四十年の節目の年です。今後も、学生・教職員伝道に祈りと知恵を集めると共に、地区の教会との協力・連携を強め、地域伝道にしっかりと取り組みながら、チャペルを満たす日曜礼拝を望み見ながら、前進したいと思えます。

## 教会は前に向かって

初雁教会 町田 さとみ

初雁教会は、今年で創立八十周年を迎えました。

二十年ほど前から、教会の展望を「ビジョン21」という三本柱にまとめ、目指してきています。内容は信仰継承や高齢者へのケア、地域伝道や会堂建築が盛り込まれています。その様なかで、二〇〇八年に牧師交代を行ない、二〇一一年には会堂建築をしました。

これからも、教会が「信徒を生み出す教会・献身者を生み、教会を生み出す教会」という目標を目指していきます。



現在の教会の課題は、「礼拝百名、祈祷会二十名」です。教会員の高齢化が少しずつ進み、五十名程で礼拝をささげている私たちの教会にとって、これはかなり大きな課題です。しかし、現在の礼拝出席者一人ひと

りが、一人を教会に導くことで達成するビジョンです。大きいですが、無謀ではありません。今年度からは月に一回、「讃美歌を歌う会」を始めました。埼玉オペラの会員でもある教職員が、講師指導をしています。その他、チャペルコンサート、讚美礼拝、バザー他、教会の門戸を広く開け、伝道に励んでいます。

日曜日の礼拝に来られない高齢者や働き盛りの兄弟。今日の課題は多々ありますが、前進あるのみです。

## 教会の今、そして課題と展望

加須教会 舟生 康雄

九月は礼拝出席平均男三・七五名、女八・二五名で計十二名でした。この内、求道者は平均三・二五名で子どもが二名含まれています。月一回の聖書の素読会は未信者の方を含めて七名ほどの出席があります。十月の役員会では隔週の聖書研究祈祷会を立ち上げることが決まりました。加須教会では週日の集会を行うことが難しく

だったので、このように日曜日以外の集会が増えることは願わしいことです。求道者や新たに洗礼を受けた方がしっかりと教会に結びつくことを願っています。

また今年の教会の年間テーマは「祈る教会」としました。このテーマになって今年で三年目ですが、月一回の祈祷会も教会に根付くようになりまし



加須教会に必要なことは信仰生活の基本的な要件を整えることです。礼拝、聖書、聖礼典、祈り、賛美、献金、他教会との交わりなど、多くの教会が普通に備えている事柄を教会に実現していくことが必要だと考えています。日本基督教団信仰告白を礼拝で告白すること、聖餐式を年四回から毎月を増やすこと、基本的な教理を理解すること等、信仰の基盤をしっかりと整えることが加須教会の課題です。

地区委員会報告

二〇一五年度第三回委員会

日時 七月十四日(火)

会場 埼玉新生教会

出席 九人 陪席 無

●地区内の教会・教師の報告

○就任 \*江田めぐみ(越生教会)

○就任式六月二十一日

\*小林則義(東京聖書学校吉川教会) 七月十二日

○献堂式 白岡伝道所(菁莪幼稚園礼拝堂) 六月二十四日

●その他の報告

○韓国基督教長老会京畿中部老会訪問の報告

六月二十二日~二十五日の

予定で計画されていたが、中東症候群(MERS)の感染が韓国で拡大していることを考慮し、今回の訪問は中止となった。

○教団退職年金掛け金補助の報告 深谷西島教会を推薦した。

●地区委員推薦の件報告

宣教師部・教育委員(信徒)の推薦者を選任できなかった。

●会計報告

五月十二日から七月十三日分

●主な協議事項

一、地区総会付託議案に関する件

①議案第八号 地区会計監査選任の件 藍田修牧師(鳩山

伝道所)、佐久間文雄兄(志木教会)の選任について承認した。

②議案第九号 地区総会議事録承認に関する件

前年度地区書記提出の二〇一四年度地区総会議事録を一部訂正の上、承認した。

③議案第一〇号 次回地区総会会場及び日程の件

日時:二〇一六年三月二十一日(月) 午前九時三〇分~午後四時 現在、候補教会と調整中。次回までに詳細を相談し、次回委員会で決定したい。継続審議とする。

二、二〇一六年度関東教会総会設置の件

二〇一六年五月十六日(月)~十七日(火)に予定されている関東教会総会の設置担当を日程上のことから群馬地区から埼玉地区に変更したいと常置委員会提案があり、これを承認した。準備計画についての詳細を伺うため、次回の地区委員会に教区から主事と教区書記を招くことを決めた。

三、伝道所・集会所との懇談会の内容に関して

十一月十日(火) 午後三時より埼玉新生教会で開催することを確認した。

四、奏楽者派遣の件

奏楽者の派遣を希望する教会を募るため埼玉地区通信に案内文を掲載することを決めた。

五、新年合同礼拝について

新年合同礼拝の司式と説教者について次回検討する。

●閉会祈祷 石川幸男

二〇一五年度第四回委員会

日時 九月十八日(金)

会場 埼玉新生教会

出席 十人 陪席二人

●地区内の教会・教師の報告

○就任\*山野裕子(久喜復活伝道所) 開設式及び就任式

八月十六日\*大坪直史・大坪園子(熊谷教会) 九月十三日\*東海林昭雄(日野原記念上尾栄光教会) 十月十八日

○辞任 山田称子(浦和別所教会) 六月末辞任

○入院 細谷武英(菖蒲教会) 本人から菖蒲教会を辞任する旨の申し出を受けている。代務は未定。

●地区・教区水害被害報告

九月十日教会・伝道所に被害確認をしたが地区内は、被災報告無。教区内の水海道教会被害情報を共有。

●会計報告

七月十四日から九月十二日分

●主な協議事項

一、地区総会付託議案に関する件

○議案第十号 二〇一六年度地区総会会場の件 会場調整中、継続審議。

二、二〇一六年度関東教会総会設置の件 第六十六回関東教会総会の設置担当について、栗原教区書記と金刺教区主事より経緯と説明がなされた。設置委員会を組織して準備に取りかかる。継続審議とする。

三、新年合同礼拝の司式と会場に関する件

会場を上尾合同教会に決定し、説教者の候補を内定した。

四、奏楽者派遣の件

伝道所・集会所との懇談会で再度要望を聞く。

五、教区分担金減免の件

加須教会より教区分担金減免申請があり、これを承認した。

六、教団伝道資金に関する件

伝道資金の趣旨について理解を深めた。地区の教会・伝道所の伝道計画をより支援できるように今後も協議する。

七、北川辺伝道所に関する件

三役の問安報告がなされた。活動休止せず、教会員に配慮

しながら検討を続けていく。閉会祈祷:川口孝弘 (書記 末 永廣)

編集後記

猛暑の夏、そして自然災害の多々あった日々を思い起こしつつ、地区通信四十四~二号の編集をようやく終え、皆さまのお手もとにお届けできますことを感謝しています。夏から秋にかけて開催された集会の様子を、それぞれの責任者や担当者に執筆を依頼し、報告いただきました。二年毎に開催される教会全体修養会は、近年参加者が少なくなってきましたが、二泊三日の中で互いに交流できる良い機会であると思います。また、今号は、新たに開設された伝道所の喜びとその地域への伝道への思いを伝えていただきました。特集も三つの教会から「今・そして課題と展望」をご紹介いただきました。各委員会、各々が計画した企画の寄稿に感謝します。待降節を迎え、国内外で様々に異なった悲惨と恐怖の中にある人々を覚えます。御言葉による主の慰めを求め、平安の内にクリスマスを迎えることができますように祈ります。

(茨木)